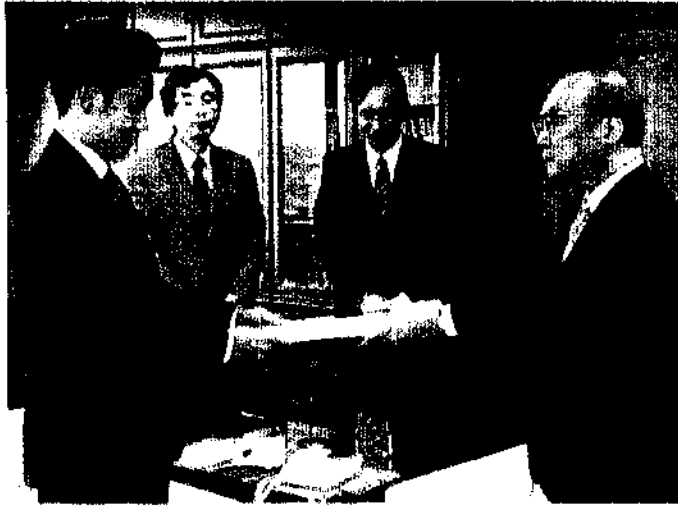


解体一転「保存」へ

南九州学園 借用申し入れ

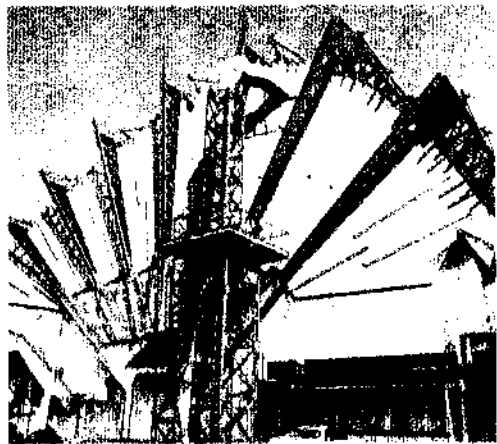


長峯市長に都城市民会館について要望する澁谷理事長（右）＝都城市役所で

老朽化や財政難などを理由に「解体」が決まっていた都城市民会館について、同市に南九州大学を移転する南九州学園（宮崎市）が29日、都城市に対し、「20年間、無償で貸して欲しい」と要望した。長峯誠市長は「前向きに検討したい」と応じ、市民の間から保存を求める声が出ていた同会館は、大学の施設として活用される見通しになった。

市長も「前向き」

同学園の澁谷義夫理事長は、昨秋長峯市長を訪れ、ハス跡地に移転、開校する計画を話し、要望書を手渡した。同市は、同市側は、市民会館を運営する南九州大は昨年1月、高鍋キャンパス（高鍋町）を同市の宮崎サテライト教室などに利



解体方針が一転、大学の施設に活用される見通しとなった都城市民会館

という。市は11月6日の庁議で同会館の無償貸与を正式決定し、学園側に回答。さらに、解体工事費約1億円を減額した補正予算案を12月定例会に提出する方針。アスベストの除去工事は半年程度かかる。工事終了後に無償貸し付け議案も議会に諮るとしている。

用したいと説明。澁谷理事長は「学生と市民の交流の場になりたい。市民にも開放したい」と語った。「建築物としての価値が高く、保存が望まれる」とも、要望した理由に挙げた。

同会館は1966年に開館。著名な建築家、菊竹清訓氏が設計した。竹筒状の設計で、自然光を取り込み、老朽化が進んだことや維持運営にかなりの費用負担などを理由に解体の方針を打ち出し、アスベスト除去工事と合

長峯市長は「意外で想定外だったが、うれしい話だ」と歓迎した。また、「都城のシンボルの建造物で建築学的価値も高い。解体は時期尚早」などと訴えていた市民らにとっても朗報となった。

保存活用を求めた。南九州の文化と建築を考える会などの一機建築士、平岡清一さんらも本音に近いコメントを述べ、全国に建築関係者も胸をなで下ろしている。と喜んだ。

館市民会館 舟助へ続存 都城市

南九州学 園 無償貸与申し入れ

都城市が解体を決めた同市民会館について、同市に南九州大学を移転する高鍋町の学校法人南九州学園（澁谷義夫理事長）は二十九日、「文化的価値がある」ことなどを理由に、長峯誠市長に会館の二十年間無償貸与を申し入れた。長峯市長は「青大の霹靂（へきれき）だが、前向きに検討する」と申し入れに理解を示した。来年一月にも解体工事が始まる予定だった同会館は一転して存続する見通しとなり、保存を求めていた市民も「いいニュースだ」と喜んでいる。

20年間、市長も前向き

澁谷理事長によると、貸与申し入れの理由は建物の文化的価値のほか、同大学移転先の高崎産経大跡地に講堂がなく会館を入学・卒業式、イベント会場などに使うため。要望書は「会館のアスベ

スト除去と復旧工事は市側で行う」「貸与期間中は同学園が自主運営する」の二点を希望している。

改修工事は同大学都市キャンパスの開設・新学部設置の経費に含め、市の補助金は従来通り二十億円を限度とする。



長峯市長に都城市民会館無償貸与の申入書を手渡した南九州学園の澁谷理事長（右）二十九日午前、都城市役所

記者会見した澁谷理事長は「名称は大学会館（仮称）に変更されるが、一般市民にも開放する。愛称の公募も検討したい」と話した。長峯市長は「想定外のことだけれど、精査した上で、前向きに検討したい。保存を求めている市民にも喜んでもらえると思う」と語った。申し入れを受け入れた場合、市は九月定例議会で可決した解体工事費などの補正予算案を十二月

「コモレ」(ジャパン) (本部・東京) が二〇〇六年度選定の建築物工選に加えた。

2007.10.30
高崎産経新聞

「本館は」本館にいいニュースだ。喜ばしい。全国の建築関係者も胸をなで下ろしているのではないかと歓迎している。同市民会館は一九六六(昭和四十一)年に開館。奇抜な外観は六〇年代の建築運動メタボリスムを代表する建築の一つとされ、建築家などで作る非政府組織(NGO)「DOCOMOMO」(下